

平成 18 年度
前 期

日本語論述

13 : 30～15 : 30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて 3 枚ある。
- 3 解答用紙（25 字×40 行=1000 字）は、2 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～4 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語
(横書き) で解答しなさい。

【問題 1】

インターネット上のコミュニケーションは匿名性が特徴である。ところが近年、アメリカの個人で開設している Weblog (ブログ) や Web ページ (ホームページ) には、署名入りのものが増えているという。それをふまえて、インターネット上のコミュニケーションのあり方について論じなさい。

【問題 2】

今年、名古屋では万国博覧会が開かれ、来年はドイツでサッカーのワールドカップが、また 2008 年には北京でオリンピックが開催される。こうした国家的規模の祝祭が、国家やその社会においてもっている意味や影響について、具体例をあげて考察しなさい。

【問題 3】

次の文章を読み、「国際共通語」と「自分の民族語」との関係についての筆者の見解に対して、賛否いずれかの立場を示した上で、具体例をあげてその理由を述べなさい。

一つだけはっきりさせておきたいのは …(中略)… ある言語が国際共通語になることにはそれなりの価値があるということである。共通語には、国際的な意志疎通を促進するという明確かつ有益な役割がある。だが、ある言語がなんらかの進化過程を経て世界の共通語になったとしても …(中略)… それはほかの言語を犠牲にすることにはならない。みんなが少なくとも二つの言語—自分の民族語と国際共通語—を話す世界というのは完全に可能であり、…(中略)… 非常に望ましい。その二つの言語は異なった目的—一つは民族・文化的独自性の保持のため、もう一つは相互理解のため—を持つので、対立する必然性はない。

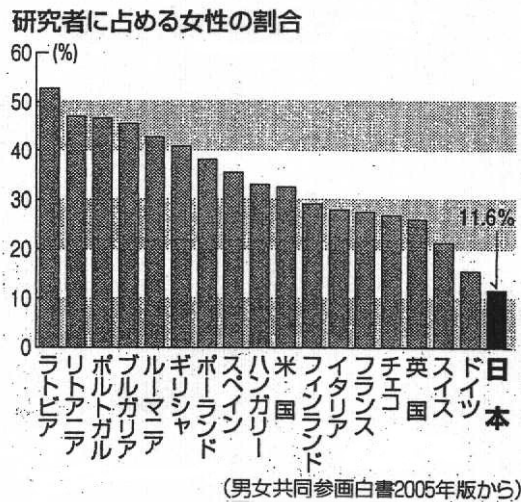
出典： デイヴィッド・クリスタル『消滅する言語—人類の知的遺産を
いかに守るか—』 齊藤兆史・三谷裕美訳 中央公論新社 2004

【問題4】

日本では、大学やシンクタンクなどに勤める研究者に女性が占める割合が、国際的にかなり低い水準にあるという調査結果が、今年版の「男女共同参画白書」に盛り込まれた。

白書は15歳の日本の子どもには数学、科学の理解度で男女の差がなかったことを示し、「生来の能力の差」ではないと主張する。理工系協会で作る連絡会のアンケートでも、「技術者・研究者の女性比率はなぜ低いか」を問う設問に、「男女の能力の差」という選択肢を選んだのは男性6%、女性3%と少なかった。

女性研究者の割合は日本でも増加傾向にあるが、国際的に見れば、下の表が示しているように、大きく水をあけられている。日本では女性の研究者が少ないことの背景を考えて、増やすにはどのように改善したらよいかを述べなさい。



出典： 「研究者の女性比 日本は11.6% 格段に低水準」
朝日新聞（朝刊）2005年5月30日